

嚥下障害患者における舌圧強化と摂食嚥下機能改善の関連

紀南病院 NST

福田尚子 須崎 眞 山 中 学 間下哲也 沢田浩一 渡邊紗野子
輪野裕理 野田貴子

【はじめに】紀南地域は三重県最南端に位置し、熊野市、御浜町、紀宝町の3市町からなり、人口38696人のうち65歳以上は14416人、高齢化率は37.25%と非常に高い（平成27年）。そのため、当院入院患者は高齢者がほとんどである。厚生労働省が発表した統計では、肺炎はがん、脳卒中に次いで日本人の死因3位となっており（平成27年）、高齢者の肺炎の原因として摂食嚥下障害が大きな原因を占める。当院でも誤嚥性肺炎患者は多く、他疾患も合わせ摂食機能療法の対象患者が非常に多い。近年、舌圧と嚥下機能との関連が言われており、舌圧強化と嚥下機能改善の関連について検討した。【対象と方法】当院回復期病棟に入院した56歳～89歳までの嚥下障害患者10名、原疾患は全例脳血管障害であった。舌圧測定（JMS）、舌運動機能、発話明瞭度を評価し、嚥下については嚥下重症度分類（DSS）、嚥下造影検査（VF）にて検討した。STによる週5日の訓練を継続し、適宜、評価を行った。【結果】舌圧値が低いと嚥下障害は明らかであり、舌圧向上に伴い嚥下障害が改善傾向にあった。しかし、舌圧を十分保持しているにも関わらず、嚥下障害の程度に変化がない症例もあった。【結語】10例の経過について、舌圧と嚥下機能との関連を検討したので報告する。